

平成 21 年 6 月 23 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18720246
 研究課題名（和文） マレーシアの華人新興宗教徳教についての人類学的研究
 研究課題名（英文） An anthropology study on the Chinese Popular Religion Dejiao in Malaysia
 研究代表者
 黄 蘊 (HUANG YUN)
 北陸大学・未来創造学部・講師
 研究者番号：10387384

研究成果の概要：

本研究は、マレーシアの華人新興宗教徳教の発展と拡大のプロセスに焦点を合わせ、移民社会における徳教の独自の教団モデルの形成及びそれをめぐる現象を考察したものである。具体的に、徳教がこれまでどのような担い手によって、そしてどのようにして自身の展開モデルを形成してきたのか、徳教をめぐる社会現象をどう理解すればいいのかということをも明らかにし、現代マレーシア社会における華人教団の一形態を描き出した。また、移民がいかにして出自社会の宗教要素を選択的に取り入れ、主体的に独自の教団形態を構築してきたのかを論じ、移民と宗教の新たな理論構築を試みた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	330,000	3,730,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：マレーシア、徳教、潮州系商人、扶鸞、慈善活動、宗教の創出

1. 研究開始当初の背景

20世紀前半に東南アジアの華人社会に華人の移動とともに多くの華人民間教派が伝来した。それらはその後それぞれの現地社会の状況に適応しつつ、独自の展開を遂げるようになった。その中で、徳教という新興宗教団体は、中国本土より東南アジアに伝えられ

てから本格的に教団化し、成長したものである。徳教は今日ではマレーシア、タイ、シンガポールを中心に組織を増やししながら、その影響力を拡大してきた。

徳教の独自性はその教団形態が東南アジア伝播後に、ローカル社会の状況の中で形成され、それが伝統的中国宗教のモデルと違う

様相を見せている。

そこで本研究申請時においては、徳教の独自の組織原理、教団路線がいかなる状況の中で形成されてきたのか、その後いかなる修正、葛藤を経験しつつ教団の展開が続けられているのか、また徳教をめぐる社会現象からいかなる社会状況と人々の生き様がみえてくるのか、といったことを明らかにしようと考え、本研究課題を申請することに至った。

2. 研究の目的

本研究は、マレーシアの華人新興宗教徳教の発展と拡大のプロセス、その独自の教団モデルの形成を通して、移民と宗教のダイナミックな相互交渉の実像を描き出すことを目的とした。

まず、徳教のおかれている社会状況、その主な担い手となる人々の思考、動機などを解明しながら、教団としての徳教の独自性を解明する。次に、徳教の教団モデルの形成過程と近年の新たな変化をあとづけながら、徳教の発展と拡大の要因、徳教存在の社会的文脈を明らかにする。最後に、潮州系商人を中心とする徳教の信者たちはいかにして出自社会の宗教要素を取捨選択し、また自らの現実に合わせながら、新たな宗教を創出するに至ったのかというダイナミックな過程を具体的に描き出す。

3. 研究の方法

本研究は、マレーシアの華人新興宗教教団徳教の展開、そのあり方を担い手となる人々の信仰、生活レベルより捉えることを目指すものである。そこで、本研究の展開上において、徳教の東南アジア伝播の歴史から現在に至るまでの状況を全体的に把握した上で、徳教の担い手となる人々の日常、彼らの生き方、戦略を全体の社会的状況のなかに位置づけながら、分析することが不可欠となる。本研究はこうした主旨と方針のもとで展開したものであり、文献調査とフィールド調査を基本的なメソッドとして、文化人類学、宗教社会学、歴史学という複数の分野に横断する研究をめざした。

本研究は具体的に以下の点について、フィールド調査と関係の分析を行った。

(1) 徳教と潮州系華人、ならびに全体の華人コミュニティとの関係性について、マレーシア全体の状況を視野に入れながら、ペナンを中心に関連のフィールド調査と分析を行った。その結果、徳教は潮州系華人を中心に信者を集めながら、全体の華人コミュニティにおいてもその影響力を拡大してきたという状況が分かり、その具体的なプロセスについて分析を行った。

(2) 徳教の主な支え手となる商人階層について、かれらの生活体験、徳教とのかかわり方などを分析し、徳教と商人階層との相互関係、両者の間における交渉の実態を明らかにした。

(3) マレーシア、シンガポール、タイなどの諸徳教団体間の相互連携、交流の実態を視野に入れながら、マレーシアにおいて、潮州系を中心とする商人階層がいかなる状況の中で、どのようにして徳教を教団として創り上げてきたのかというプロセスとその実態をまとめ上げ、関連の分析を行った。

4. 研究成果

本研究は、マレーシアの華人による徳教創出の過程、移民と宗教のダイナミックな相互交渉のプロセスを明らかにしたと同時に、移民と宗教をめぐる新たな理論的視野を開いた。

本研究は、まず徳教の華人社会における独自の位置づけと教団展開のこれまでの葛藤に満ちたプロセスを明らかにした。徳教団体は、扶鸞を介した神からのメッセージの獲得や、慈善の展開を主な活動としており、組織性を有してはいるが宗教的修行を含む完全なる宗教制度を確立していない、地域社会に点在する廟と制度化した教派宗教の中間に位置するようなものと位置づけられる。一方、徳教の組織的拡大に従い、教団のイデオロギーや展開路線をめぐる各種の論争や葛藤が浮上し、その中で理論強化に向かう数々の試

みもなされてきた。それらは、徳教の理論基盤・教団体制の脆弱さ、組織展開の非均衡性を反映しての展開であり、また徳教の主な担い手である商人階層の上昇志向と連動するものとして捉えられる。しかし、徳教団体間では、教団の展開路線に関するコンセンサスが得られておらず、共通の体制も構築されていないなかで、教団の変身が思うように遂げられていないのが現状である。

次に、徳教のトランスナショナルな展開とネットワークの構築を考察し、より広い空間の広がりにおいて徳教の展開状況を明らかにした。マレーシア、タイ、シンガポールといった東南アジア諸国では、徳教は教化システムの不完全性を抱えたまま、潮州系を中心とする各国の商人階層のネットワークや関係性の上に立ち、拡大を実現してきた。その意味で、教理の深化よりネットワーク化と組織の拡大性こそが徳教の教団イデオロギーであるということがいえる。近年のトランスナショナルな拡大とネットワークの構築も、その延長上のものである。つまり、組織の拡大化、ネットワーク化こそが徳教の存在形態であり、それらが徳教のもつ本質的な性格なのである。

最後に、以上の議論を踏まえ、商人階層と徳教、つまり、移民と宗教のダイナミックな関係について明らかにした。徳教のこれまでの展開は、商人階層である人々の精神的傾向や、様々な現実的需要と深く係わりながら、なされてきたものであり、今日のいわば様々な欠陥をもつ徳教の教団スタイルは、徳教の担い手である人々の精神性を反映しているものである。つまり徳教は、商人を中心とする華人大衆の生き方そのものである。彼らはそのおかれた社会環境や知識的制約のなかで、自らの理解から、自身の生活スタイルに見合う形で宗教信仰を再構築してきた。すなわち、徳教の主な担い手である商人階層は、理論的深化と宗教的修行を抜きにして、神信仰と互助・親睦性という二つの要素を結合させ、自らの「宗教」を創出してきたのである。

本研究はこうして徳教の展開にみる商人階層と宗教の相互関係を明確にし、また、伝統知識、世俗的ニーズ、そして、超越的霊力という三つの要素を媒介とする移民と宗教

間の交渉の実像を描き出した。本研究は、最終的にこうした移民が能動的に宗教を構築しようとすると同時に、宗教の力に大きく影響されてきたという状況を明らかにしたことで移民と宗教研究の理論的視野を充実させてきたとの成果をあげている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 黄蘊 2008「徳教のトランスナショナルな拡大とネットワークの構築」『東南アジア 歴史と文化』第37号：60-84、査読有
- ② 黄蘊 2007「マレーシアにおける徳教の教団的展開」『宗教と社会』第13号：75-103、査読有
- ③ 黄蘊 2007「マレーシアにおける民族と宗教」『東アジアの窓』創刊号：22-32
- ④ 黄蘊 2007「マレーシアにおける徳教 (dejjiao) の展開—華人新興宗教の一形態」『トランスナショナルリティ研究』3：267-294、査読有

[学会発表] (計3件)

- ① 黄蘊 2008. 6. 21 「華人教団徳教の人類学的研究——マレーシアにおける移民と宗教のダイナミズム」、日本文化人類学会近畿地区研究懇談会、京都大学
- ② 黄蘊 2008. 6. 7 「移民による宗教の創出——マレーシアにおける徳教の事例」、東南アジア学会第79回研究大会、大阪大学
- ③ 黄蘊 2008. 5. 31 「拡大性とネットワークの構築」、日本文化人類学会第42回研究大会、京都大学

[図書] (計1件)

- ① 黄蘊 2008『移民と宗教のダイナミズム
——マレーシアにおける徳教の事例』
(ブックレット) 北陸大学東アジア総合
研究所、44 頁

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

黄 蘊 (HUANG YUN)

北陸大学・未来創造学部・講師

研究者番号：10387384